

浅井町ふれあいたより



11月号

重点施策 「安全で安心なまちづくりと子どもたちの健全育成」
発行者 浅井町地域づくり協議会 一宮市浅井町前野字郷西 85
ホームページ 138azai.org(検索「浅井町地域づくり」)

発行日 令和2年11月1日

(浅井町出張所内)

地域とのつながりを大切に

一宮市立浅井南小学校 校長 吉峯 博司

本校では、児童の豊かな心の育成につながる様々な活動をしています。地域の方々にお力添えをいただくことが多くあり、そのつながりの深さを強く感じます

例年、一学期には、サツマイモの苗植え（2年生）伝統文化体験（6年生）とナゴヤダルマガエル調査会（3年生）、二学期には、むかしあそび体験（1年生）とサツマイモの収穫（2年生）、三学期に取り組む一人一鉢運動のためのビオラの苗植え（1年生）また、年間を通しての菊づくり（4年生）を行っています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で思うように進められない活動があり苦心しました。中には動植物を対象にするものもあります。動植物にとって最適な時期やその生長は止まってくれません。

たとえば、2年生の「サツマイモの苗植え」は、五月中旬に同窓会の方々のご指導の下での活動を予定していましたが、休校中に教員の手で行いました。秋には大きくなったサツマイモを収穫できることを、みんなが心待ちにしています。

六月下旬には、3年生が地域の方や農協の方の支援を得て「ナゴヤダルマガエルの生息確認調査会」を実施しました。また、JAの広報誌「ぐりんぐりん8月号」には、その調査の様子が載せられました。

敬老お祝い品の配布



今年は新型コロナウイルス感染拡大のため、例年浅井中学校屋内運動場で行われている「浅井町敬老会」は中止となりました。そのため敬老お祝い品を各町内の公民館・集会所で配布することとなり、9月13日(日)にそれぞれの町内で実施されました。朝から小雨が降るあいにくの天候でしたが、75歳以上の対象者は案内のはがきを持参してお祝い品と交換していました。町内会の役員と世間話をしながら、また応援の民生委員と日頃の生活について相談する風景も見られました。

浅井町全体では75歳以上の対象者は施設入所者も含めて3,700名にものぼり、毎年100名程度増えているとのこと。これからも健康で長生きをして下さい。皆様のご長寿を心からお祝い申し上げます。



浅井北小学校へ雑巾を寄贈

浅井町大野在住の吉田由美さんが8月末に、浅井北小学校に雑巾250枚を寄贈されました。吉田さんはおしぼりタオルの「(株)AZAI」の2代目社長の奥様で、ご主人を支えながら子育てをされてきました。吉田さんご自身も浅井町で生まれ育ち、浅井北小学校の卒業生でもあります。また、お子さんが小学生の頃、今の校長の太田暢子先生がクラス担任の教師でもあったということや、吉田さんがPTA会長を務められたということもあり、浅井北小学校とは様々な縁がありました。新品のタオルを何か違う物に変えて使い道がないか考えていた時、小学校では感染予防のため、先生方や職員の方が毎日消毒作業に追われていることを知り、雑巾ならいろいろなところで使ってもらえるのではと考えられたそうです。日ごろから、交流があるいずみ作業所の方をお願いして、縫製をしてもらい、小学校へ寄贈されました。



前野町内「見守り隊」の活動



前野見守り隊は6人で、登下校の児童・生徒を全員で見守っています。前野町内は東西に長く、南北を走る県道と東部幹線の2つの道路があります。車の通行量がとても多く、特に朝の登校時間帯が混雑します。

見守り隊の隊員は、登校時は前野公民館前と平安会館前の信号、そして下校時は県道交差点1ヶ所を見守ります。特に、低学年の下校時には浅井中小学校から東部幹線の押しボタン信号まで一緒に歩いて同行します。これからも児童・生徒の安全、安心を守るため

また少しでも事故が減るように、見守り隊員全員で協力して頑張りたいと意気込んでいます。

浅井中学校体育祭

9月18日(金)浅井中学校で体育祭が行われました。今年度の体育祭はコロナ禍での開催となり、例年に比べ準備期間が短く、それに加え8月9月の酷暑の中での練習となり、先生も生徒も大変な思いをされました。また、当日は新型コロナ感染予防のため1年生から順番に各学年ごとで行われました。



今年は『記録より記憶に残せ!いざ出陣!』のスローガンのもと生徒たちは力いっぱい走りや、アップテンポの曲に合わせた見事なダンスを披露して保護者の方々からは大きな拍手が送られていました。競技中はクラスメイトにエールを送り、競技の後は笑顔でお互いの健闘を称え合う姿がありました。どの学年も優勝を目指し、クラスの結束を固めて臨んだ素晴らしい体育祭でした。

浅井町の文化財・史跡紹介(4)「浅井山公園」

浅井山公園は、昭和37年、森家から庭の一部である池の寄贈を受けた市が、他の土地を購入し整備をした公園で、その温故井池が公園の面積の半分近くを占めています。この池には、お子さん連れの家族や、本格的に釣りを楽しむ多くの方が訪れ賑わっています。池の周りには、多くの桜の木があり春には花見を楽しむことができます。池の南側にはバラ園が整備され、綺麗なバラが咲きます。また、南東部は小高い山になっており、マツやモミジを見ることができます。さらに北側には、こども用の遊具や砂場があり、市民の憩いの場になっています。

